JAPRS

JAN.2014 No.2

初夏号

一般社団法人　日本音楽スタジオ協会

目　次

平成26年JAPRS新年会　1

第４回 Pro Toolsセミナーレポート　2

2014年JAPRS新プロ・エンジニア研修会レポート　4

JAPRS／JAREC／NHK／民放連 技術交流会レポート　8

会員動向

平成 26 年 JAPRS 新年会

１月 23 日（木)、平成 26 年 JAPRS 新年会が開催されました。本年は、昨年に続き元赤坂・明治記念館 １Ｆ「若竹」に於いて 123 名の参加者により実施されました。

内沼会長

18:30 運営委員会の茂木副委員長（個人会員)､江下副委員長（ヴァストミュージックエージェンシー）の司会により開宴となり、最初に内沼会長が年頭の挨拶を述べられる。

続いてご来賓の方々を代表し、経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 望月 孝洋氏が挨拶される。

経済産業省 商務情報政策局
文化情報関連産業課
課長補佐　望月 孝洋氏

一般社団法人日本レコード協会
理事　畑 陽一郎氏

続いて乾杯となり、関連団体を代表して一般社団法人日本レコード協会理事 畑 陽一郎氏により乾杯の発声が行われ、歓談の時間となる。
正会員、賛助会員の他にも JAPRS に関連する 10 団体からの招待者が加わり、会場の所々で歓談の輪が出来る。

佐久間 義彦氏

20：10 中〆の時間となり、学校法人東放学園 名誉校長 佐久間義彦氏挨拶の後、20：30 無事に終了することが出来ました。

第４回 Pro Tools セミナーレポート　Vol. 1

株式会社エムアイティギャザリング
辻中 聡佑

平成 26 年２月５日、ROCK ON PRO セミナールームにて Pro Tools セミナーが開催されました。

ROCK ON PRO の君塚 隆志氏と前田 洋介氏を講師とし、行われた内容をレポートします。

㈱ メディア・インテグレーション
君塚 隆志氏

１．現状のシステムを知る

Mac OS と Pro Tools のバージョンの関係、Mac Pro のモデルによっての違い、見分け方や、HDX システムに対応した Mac Pro の必要条件などをプロジェクターにて解説。

２．初期トラブル対応

トラブル時の初期設定のリセットの仕方や、プレイバックエンジンにトラブルがあった際の回避法、ビデオエンジンの改良によって変更された点などを解説。

３．プラグインについて

iLok、WAVES のライセンス管理方法。アプリケーションの使い方や、起こりうるトラブルの紹介と解決法、Pro Tools のバージョンによる対応プラグインの違いの説明など。

㈱ メディア・インテグレーション
前田 洋介氏

４．Pro Tools HD 11 について

新機能の解説。64bit 完全対応、オーディオエンジン AAE、オフラインバウンス、メータリング、専用インプットバッファ、プラグインのダイナミックホスト処理などの解説。ROCK ON ASP サービスについて軽く触れる。

５．Avid S6 の紹介

新製品の Avid S6 について、プロジェクターを使用して紹介。

６．新 Mac Pro の状況について

新しい Mac Pro に Sonnet のエクスパンションで HDX3 の実機を組み、実演。パワーにあふれる様子を実演。使用感や安定性について解説。

セミナーを受け、新 Mac Pro を使用したシステムの安定性やプラグインの対応状況を考えると、商業スタジオでの運用にほぼ問題なく、導入期がきているように感じました。すでに都内の一部スタジオでの導入例もあり、ここ１～２年での乗り換えが現実味を帯びてきたように思います。今回のセミナーでの情報をもとに Pro Tools のバージョンアップについて情報を集め、今後のスタジオ経営について考える良い機会になったと思います。

第４回 Pro Tools セミナーレポート　Vol. ２

株式会社メディア・インテグレーション
前田 洋介

2 月 5 日（水）、弊社セミナールームをご利用いただき皆様にお集まりいただいた JAPRS 主催、第 4 回 Pro Tools セミナー。実際の現場で役に立つと思われるサポートの TIPS、最新の Pro Tools 11 の情報、そして、新型 MacPro の実機稼働の様を皆様にご覧頂きました。

Session #1　現状のシステムを知る

このセッションでは、世代交代の時期に差し掛かっている Pro Tools システムの現状をご説明しました。特に新しくなった DSP カードである Pro Tools HDX カードの PC 本体との互換性、そして　MacPro の世代の確認方法等具体的な内容を盛り込んでのレクチャーを行いました。

Session #2　初期トラブル対応

Pro Tools 10 から初期設定の削除方法が変更になっています。通常、マイナートラブル時の初期対応として行って頂いているこの初期設定の削除方法を確認しました。もう一点、Pro Tools 9 から 3rd Party の Audio Interface の利用が可能となり、Audio Engine の切替が可能となっています。これに伴い、起動時に前回起動時の Audio Engine を見失い起動できなくなるというトラブル、それに対しての解決方法をご案内。このような、実際に現場で起こりえるトラブルの初期対応方法をご案内いたしました。

Session #3　iLok/WAVES ～ライセンス管理方法～

昨年 iLok・WAVES 共にそのライセンスの管理方法が変更され、新しいものとなっています。その新しい iLok License Manager と WAVES License Center の実際の使用方法をご説明。特に WAVES は iLok を使用しない方式に変更となったため、その概要も合わせてご説明させていただきました。

Session #4　プラグインフォーマットの整理

Pro Tools HDX カードがデビューし､全く新しいプラグインフォーマットである“AAX”が登場しています。この “AAX” と従来の “TDM”､“RTAS” それぞれがどのバージョンのどの構成のシステムで稼働するのかを一覧表にてご説明を行いました。

Session #5　Pro Tools 11 での新機能

Pro Tools 11 で実装された数々の新機能から “Dynamic Audio Processing” と “Offline Bounce”、“Multiformat Metering” をご説明させていただきました。64-bit 化されたア

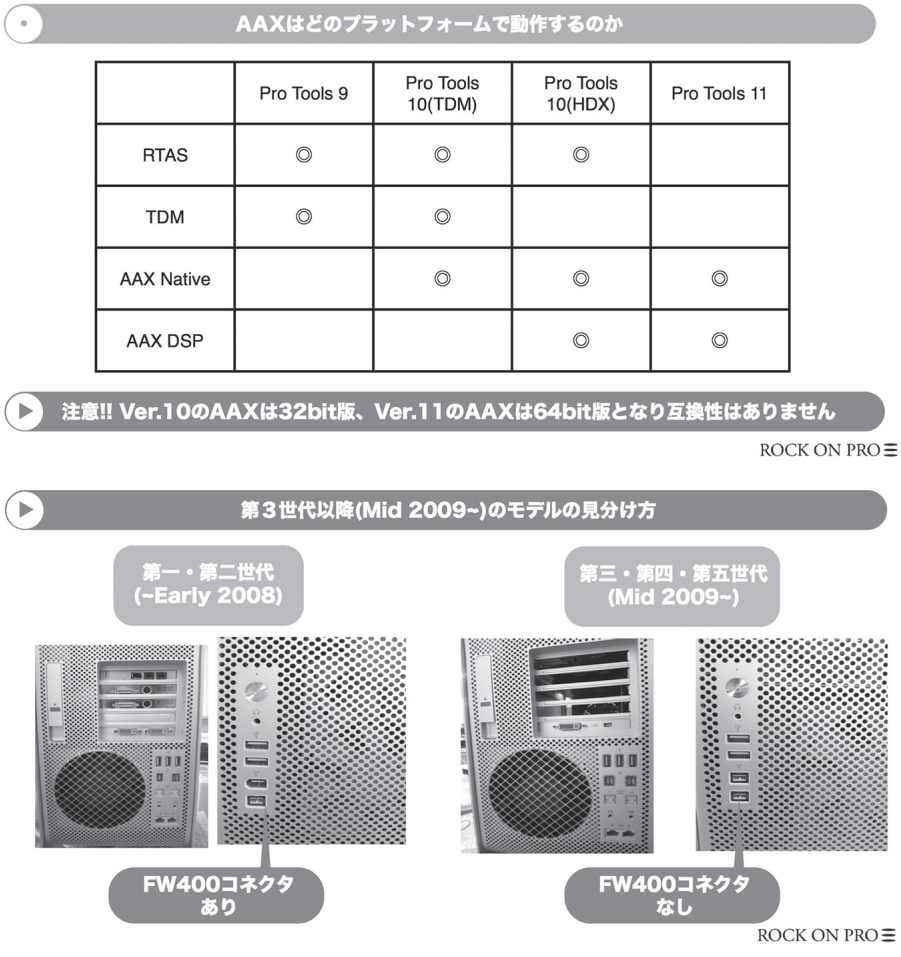
プリケーションにより初めて実装を実現した機能の数々。ユーザーである JAPRS 会員の皆様においては役に立つものである機能が多数実装されています。

Session #6　Pro Tools の保守サービス

AVID 製品の保守に対する方針のご説明と、弊社でユーザーの皆様に向けてご提案をしているニーズに合わせ、カスタマイズ可能なムダのない保守プラン A.S.P サービスのご説明を行わせていただきました。AVID だけでは、PC の不具合には対応できません。システム全体を包括的にサポートすることの重要性を含めてご説明を行わせていただきました。

以上が座学として、お話をさせていただいた部分。この後に、弊社に届いたばかりの新型 MacPro で Pro Tools HDX が　実際に動作しているのをご覧頂き、そのパフォーマンスをご確認頂きました。非常に高速な CPU と、Pro Tools 11 で大幅な進化を遂げた Disk I/O。今まではまったく実現できていなかった　USB 3.0 接続の HDD に対しての 100track を超える録音等、実際に動作の様をご確認頂きました。

最新機種のリリースなども有り、短い時間の中にかなりの要素をつめ込ませていただきましたが、ご来場の皆様にとって有意義なものであれば幸いです。今後も弊社 web を通じて、最新情報を順次発信してまいりますので合わせてよろしくお願いできればと考えております。



2014 年 JAPRS 新プロ・エンジニア研修会レポート

３月８日（土)、今年度も東京都しごとセンター地下２階講堂に於いて、専門学校委員会の主催により「2014 年 JAPRS 新プロ・エンジニア研修会」が開催されました。

この研修会は、これから音楽スタジオ業界に就職を目指す JAPRS 賛助会員専門学校１年生を対象とし、エンジニアという仕事について、また望まれる人材と仕事の現状を講義形式で学ぶ研修会で、今回が第 14 回目の開催となりました。

今回は参加予定者 97 名のところ 90 名が参加、（内訳は仙台 10 名、東京 57 名、名古屋 16 名、大阪７名）エンジニアという職種に対する関心の高さが伺えました。

当日は、13:00 に専門学校委員会担当者９名、事務局員３名が東京都しごとセンターに集合し、13：30 からの参加者受付に備え、準備を開始しました。

受付

脇田副委員長

会場の準備もスムーズに行われ、参加学生も着席し予定どおり 13：45 より脇田 副委員長の司会のもと、研修会が開始されました。講師の講演に先立ち、内沼会長より JAPRS の活動内容、研修会の目的等が説明された後、以下の内容で各講師により講義が行われました。

内沼会長

１．「レコーディングスタジオとは」
目等 進氏（株）フリーダムスタジオ

株式会社フリーダムスタジオ
目等 進氏

２．「エンジニアの魅力と望まれる人材像」
吉田 保 委員長

吉田委員長

３．「現役アシスタントエンジニア特別コーナー」
コーナー司会：脇田 貞二 副委員長
アシスタントエンジニア：
飯島 絵莉子氏　　スタジオグリーンバード
専門学校東京ビジュアルアーツ OG
柿沼 響氏　　アバコクリエイティブスタジオ
東放学園音響専門学校 OB
木村 貴史氏　　音響ハウス
専門学校名古屋ビジュアルアーツ OB
島田 枝里花氏　　エービーエス レコーディング
専門学校名古屋ビジュアルアーツ OG

アシスタントエンジニアの皆さん

４．「資格認定制度について」
井良沢 元治 副委員長

井良沢副委員長

５．「専門学校委員会からのインフォメーション」
脇田 貞二 副委員長

今回は東京地区以外では、仙台、名古屋、大阪からの参加者がありました。
７月と９月に実施される技術認定試験へのチャレンジも含め、この研修会に参加した学生達が１人でも多く、スタジオでアシスタントエンジニアとしてスタートされることを願っています。
ご協力いただいた講師の皆様、現役アシスタントエンジニアの方々およびスタッフの方々に心より御礼申し上げます。

JAPRS/JAREC/NHK/ 民放連 技術交流会レポート　Vol. 1

（株）ＪＶＣケンウッド
ビクターエンタテインメント
高田 英男

昨年４月、NHK 制作技術センター番組制作技術部および民放連のご協力を頂き「ラウドネスの運用および実際の制作」を内容とする技術交流会を実施、ラウドネス運用が音楽制作現場（録音～マスタリング）において大きく影響する体験を踏まえて、今回再度レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニアを対象に、音楽番組における実例を体験して頂きながら下記の内容にて技術交流会が行われました。

日　時　平成 26 年 4 月 19 日（土）14：00 ～ 18：30
場　所　NHK 放送センター　CR-509 スタジオ（Api Vision アナログコンソール導入）
テーマ　「ラウドネスの運用および実際の制作」
内　容
　Ⅰ．スタジオ 509 概要説明
　Ⅱ．ラウドネスメータの基礎
　Ⅲ．NHK 管理基準と運用状況
　Ⅳ．民放連の運用状況
講　師
　秋田 正二氏 ／ 日本放送協会　放送技術局　制作技術センター
　　番組制作技術部　副部長
　小野 良太氏 ／ 日本放送協会　放送技術局　制作技術センター
　　番組制作技術部
　松永 英一氏 ／ 株式会社フジテレビジョン　技術局　制作技術センター
　　制作技術部　エグゼクティブエンジニア

小野 良太氏

秋田 正二氏

松永 英一氏

昨年４月に実施した「ラウドネスの運用及び実際の制作」について詳細なレポートが（株）dream window　深田 晃さんにより報告されている為に、今回の実施レポートについては音楽制作側（レコーディングエンジニア、マスタリングエンジニア）から感じた内容についてレポートを致します。

尚、当日説明資料（パワーポイント）を頂きましたので、併せて掲載させて頂きます。

ラウドネス運用の目的とは

ラウドネス運用前においては視聴者から、番組により音量レベルが違い過ぎる～CMになると音量が大き過ぎるなどクレームが多くあり、視聴者にリモコン操作（音量レベル調整）をしないで番組を楽しんで頂きたいとの思いから、放送における新たな音量管理基準を決め、定量的な音量レベルを測定する方法として、ラウドネス運用がスタートした。

実際にセミナーではラウドネス運用前と導入後のそれぞれの番組における音量感の試聴デモが行われ、ラウドネス運用後は確実に各番組の音量感が揃っている事も確認出来た。

ラウドネス運用においては、人が聴いた音量感覚（心理的音量レベル）を揃える事であり音楽制作現場において制作されたマスター音源の音質、音量感、音量レベルなどにより、オンエアー時には、大変大きな影響が出る事をまずは記載する。

ここがポイント！

少しでも目立つように（インパクト）がある様にしたいと思って創った音源が、結果オンエアーされるとしょぼい音になってしまう事があるよ！

スタジオ・フロアでの座講

ラウドネス運用状況

ラウドネス運用とは一つの番組（例：60分の歌番組、5分のニュース番組）においてターゲットラウドネス目標設定があり、それぞれの番組が基準のレベル範囲内にて放送される事である。

番組平均ラウドネス値：－24LKFS（許容範囲 ± 1LKFS）

ここがポイント！

例えば少しでも目立つ様にトータルコンプ処理をしてダイナミックレンジがほとんどない業界用語では豆腐？みたいな波形で創られた音源は、CDになった時にはそれなりに音量の大きいCDが創れるが､放送番組で司会者の声や音楽演奏などMA作業され､最終的にラウドネス基準によりレベル調整をされると、豆腐みたいな波形で創られた音源は－24LKFSにそろえられる為に、全体的に大きくレベルを下げられ、結果CDとは全く違ったしょぼい音で放送されてしまう！

ラウドネス運用における試聴体験

一つのマスター音源を使い、ダイナミックレンジが広く音色的にも素直な音創りをされた音源と、トータルコンプ＋イコライザーにより聴感上派手に創られた音源とをラウドネス基準を用いてレベル調整された音源の比較試聴体験をさせて頂いた。

ダイナミックレンジが広く自然な音色で創られた音源はラウドネス運用され、レベル管理されても基本的帯域バランスが良く、ベースのラインの音もしっかり聴こえ、更にサビなど音楽的盛り上がり感も良く伝わり、音楽そのものが躍動感ある様に試聴する事が出来た。

トータルコンプ＋イコライザーなどでダイナミックレンジがほとんど無く、中高域にピーク感がある派手な音色で音圧感を重視した音源は、ラウドネス運用により大き

くレベルが下げられ、全体的にはメリハリの少なく平坦な感じであり、特に低域（ベースライン）などは、ほとんど聞こえず音楽的バランスの崩れた結果、しょぼい感じの音源に聴こえた。

何故そうなってしまうか・・・ここがポイント！

ダイナミックレンジが狭く、CD マスター制作の為に極端に音量レベルを上げた音源は、ラウドネス運用により－ 24LKFS に揃えられる為に、全体のレベルを最初から下げられてしまう。そうすると、レベルが下がった状況で尚且つダイナミックレンジが狭い為に、サウンドとしてはメリハリや躍動感の無い、しょぼい音になってしまう。

＊適正なダイナミックレンジをもつ音源は、－ 24LKFS に揃えられてもダイナミックレンジが広い為に豊かな音場～質感が伝わり、結果躍動感あるサウンドに聴こえる。

放送現場における制作技術エンジニアの苦労

ラウドネス運用により番組における平均音量を－ 24LKFS に入る様に管理していますが、ラウドネス運用によりダイナミックレンジが狭く、メリハリの無い番組制作にはならない様に、担当エンジニアとしては大変な苦労と工夫をしております。

コントロールルームでの試聴・意見交感

今回のセミナーで初めて理解しましたが、担当されている番組の音量管理は勿論であるが、前後の番組との音量的なものも自然な繋がりになる様に工夫がなされています。

例として前がニュース番組で次が担当の歌番組の時などは、歌番組司会者の MC 音量レベルなど違和感が無いようなレベルに調整します。更に華やかな歌番組ならではの音量感が感じられる様に、MC の音量時に平均レベルを稼ぎ、歌演奏の時には出来るだけ大きな音量で音楽を届けるなど、番組全体の構成を上手く生かしながら、メリハリのある番組制作を目指しています。

ラウドネス運用における音楽制作現場での対応は！

1．【レコーディングエンジニアとしての音創りへの工夫】

① 音楽ジャンルやアレンジによってサウンド創りは変化するが、レベル競争から音色など、音の質感に拘る意識が、まずは必要ではないか。

② ラウドネス運用において瞬間的ピークなどは大きく影響はしない為、（ピークにて歪感が問題無ければ）過度のコンプ処理（トータルコンプ含む）は避ける音創りをする。

③ ミックス時などのモニターレベルに気をつけて（過度の大きな音にしない）小さいモニターレベルでも音量感ある音創りを目指す。

④ 現状のデジタル録音（24bit 録音）では、各録音トラックに無理な音量を入れ込む事をせずに、適切なヘッドマージンを考慮する。

⑤ 適切な帯域バランスに気をつけて、基本低域の安定したサウンド創りを目指す。

２．【マスタリングエンジニアとしての工夫】

① 現状の音楽制作進行では中々難しいが、今後ハイレゾフォーマットでの録音制作が進んで行く中、マスタリング作業において一つの作品に対し、オリジナルマスターとプロダクションマスターとに分けた制作工程を検討する事も、必要な時代になってきている。
・オリジナルマスター：発売されるメディアを意識した音創りでは無く、その作品が一番 BEST になる永久アーカイブマスター音源
・プロダクションマスター：CD マスター、配信マスター、放送マスター・・・商品化されるメディアを意識したマスター音源

② マスタリング時にトータルコンプ処理にて音量レベルを稼ぐのでは無く、帯域コンプレッサーやイコライザーなど上手く使い、音色～音の質感にて上手く音量感を感じる音創りへの工夫。

③ 録音エンジニアと事前のコミュニケーションを取り、マスタリング時で音創りがし易い様な音源ファイル（ミックス時に豆腐？みたいな音創りをしない）の持込みを推奨する。

纏め

音楽ビジネスにおいても音の質感を高めて新たなビジネスに繋ぐハイレゾ配信など、時代的にも質に拘ったビジネス（物創り）が進む中、NHK/ 民放連のご協力を頂き 2 回目の「ラウドネスの運用および実際の制作」についてセミナーをして頂き、テレビ番組制作における強い質への拘りを体感させて頂いた。（音量競争～質の競争へ）

セミナーを通じて感じた事は、音楽番組へ音源を納品する制作側（音楽制作の川上）が、現状における音創りの問題点を、まずは認識する事が大切であると思う。

テレビ放送においては新たなレベル管理基準（ラウドネスの運用）により、制作者が最終的に決めた音質と大きくかけ離れたサウンドで放送される音楽（音源）もあることを、認識する必要がある。大切な事は制作した作品を出来るだけ良い音でお客様に届けるまで関心を持って仕事を進める事であり、今回の技術交流会の様な異業者同士が連携し、問題点を共有し改善する努力を継続して行く事であると思う。

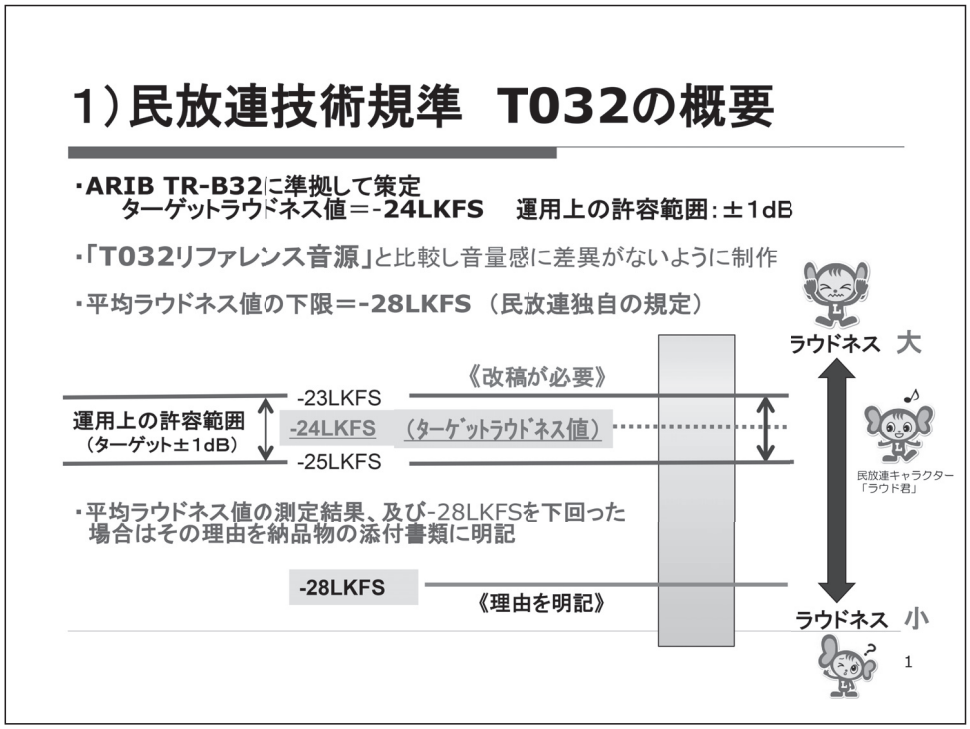
スタジオ協会の内沼会長からは、ラウドネス運用について今何が起こっているかを、制作ディレクター・アーティスト・プロダクションの人などへ啓蒙活動が必要であるとの事。

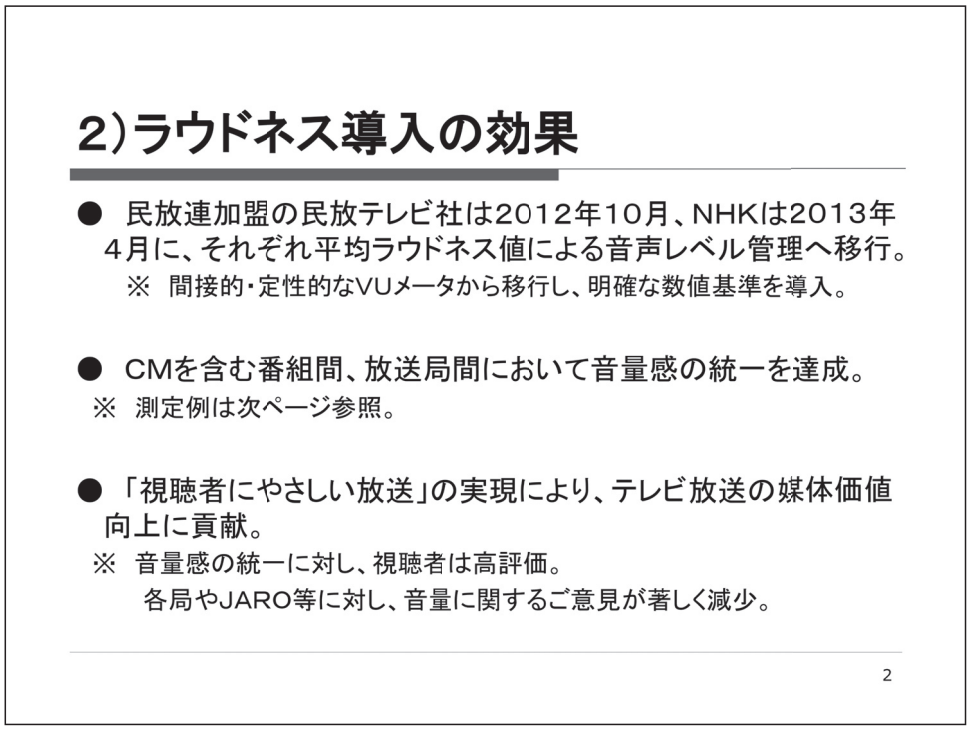
テレビ放送においては今後更に、ラウドネスレンジを如何に使い込んでいくかエンジニアが、それぞれの立場で工夫されていくだろう。

全てにおいてデジタル化が進み音楽制作においても利便性が進む中、原点回帰ではないが録音技術の基本を見直す良いチャンスが来ていると感じている。

NHK CR-509 スタジオを見学して

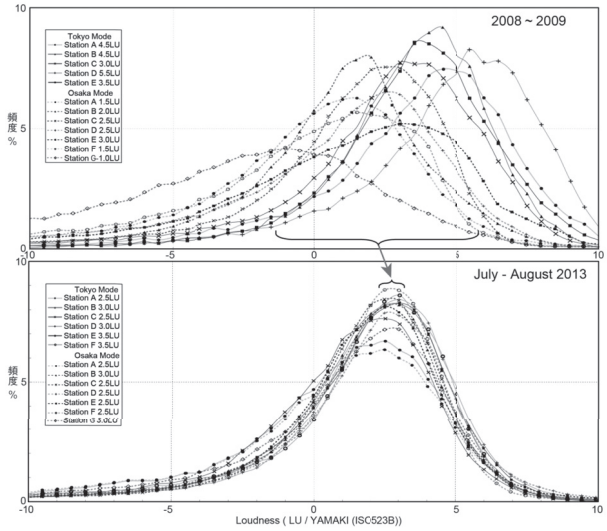
素朴な疑問であるが、何故この時期に放送局がアナログコンソールを導入したかであるが、第一に素晴らしい音楽を最高の音質で録音したい思いがあり、アナログコンソールで制作された音源であれば、どの様なデジタルフォーマットにも対応する事が可能。更に、放送局ならではのシステムの工夫（電源の二重化・・）など、スタジオ創りへの強い拘りを感じた。





＜測定例＞　在京、在阪各局の１秒ごとラウドネス値の度数分布

（上図：2008～2009年、下図：2013年）



ラウドネス運用前は地域差を含め7LUにも及んだ音量のばらつきが、ラウドネス運用後には0.5LU程度に収束。

⇒

劇的な音量感の統一を達成！

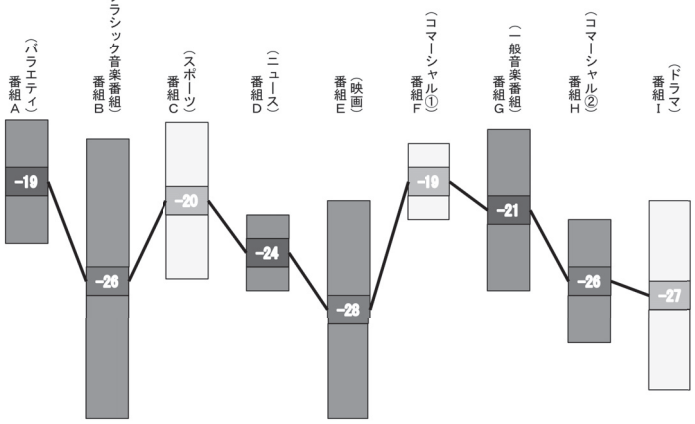
※出典：　放送技術2014年3月号　（毎日放送・入交英雄氏　寄稿）

3

2）ラウドネス導入の効果

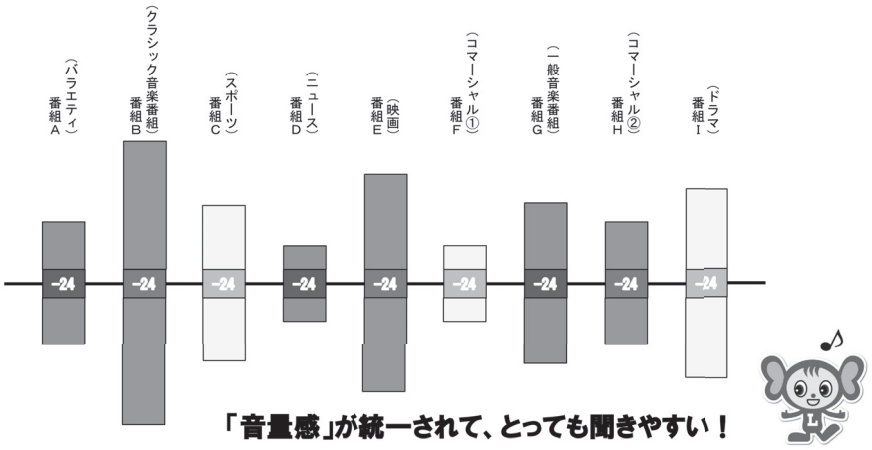
ラウドネス運用開始以前の放送素材は？

残念ながら、番組ごとに「音量感」はバラバラ！



4

2）ラウドネス導入の効果
民放局での運用開始直後の状況



「音量感」が統一されて、とっても聞きやすい！

5

3）ラウドネス規準に適合した音声制作とは
数値に囚われすぎると

□ 番組に適した音声表現の例

◆音楽番組の場合：ターゲットラウドネス値のMCに対して楽曲は、多少大き目に制作した方が自然に聞こえる

〈フジテレビの当面の対応方針〉

・楽曲は−23．0LKFSを目標値とし、その前後で制作する

・ROCKの様に常に音量が大きな楽曲は多少高めに制作
逆に静かな楽曲は−24．0LKFSを下回っても可

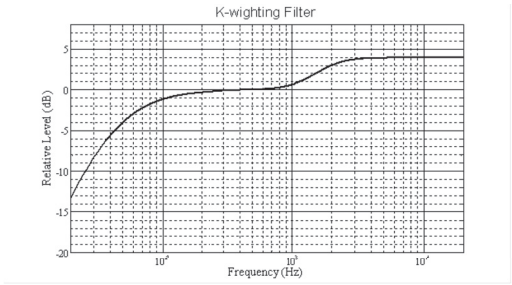
・MCを含めてT032に準拠する（±1dBの許容範囲も活用？）

ラウドネス運用だからこそ
聴感と適切な音声表現に基づいたミクシングが重要！

6

3）ラウドネス規準に適合した音声制作とは

□ K特性フィルタの効用



・「低音域」の数値が低い

・1kHz以上は数値が高い

◆VU規準では難しかった、**豊かな低音域**を使ったMixが可能！

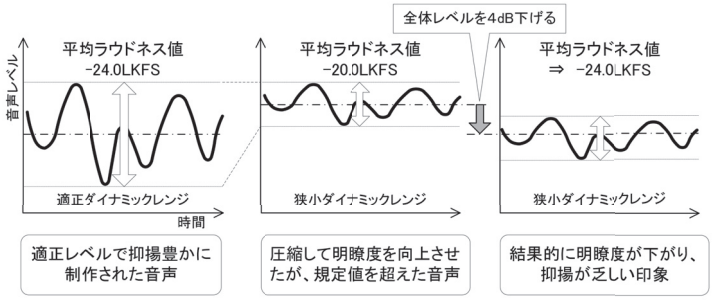
⇒ 視聴者に優しい「自然で豊かな音」をお届けできるはず

7

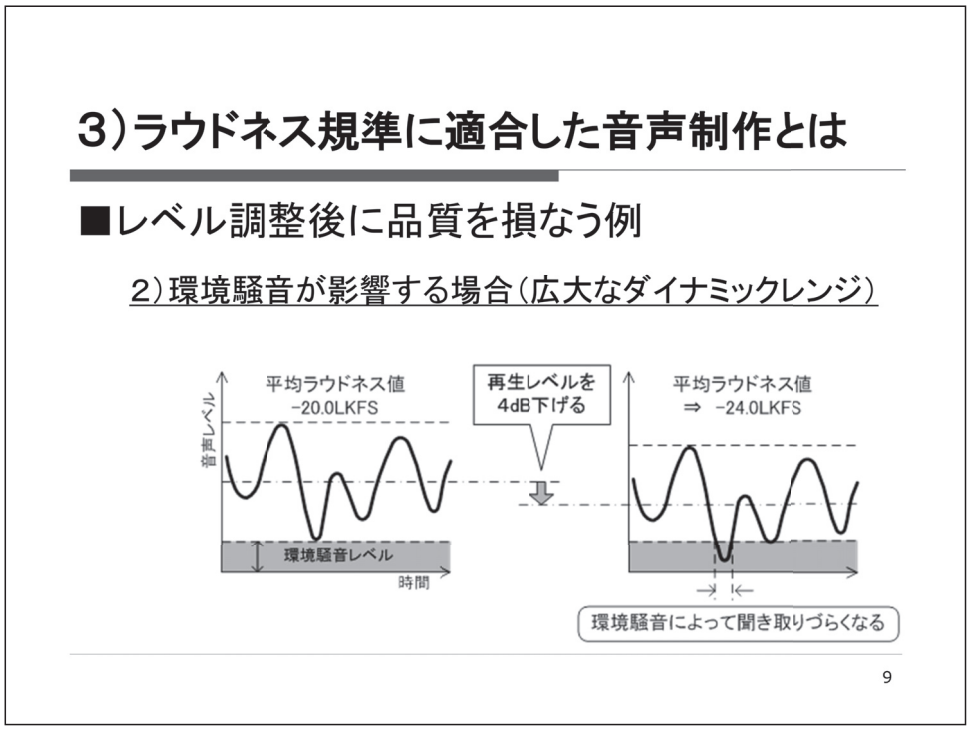
3）ラウドネス規準に適合した音声制作とは

■レベル調整後に品質を損なう例

1）狭小ダイナミックレンジで制作した場合



8



CR509 スタジオの音響設計　Vol. 2

日東紡音響エンジニアリング株式会社
佐竹 康

1. 建築概要

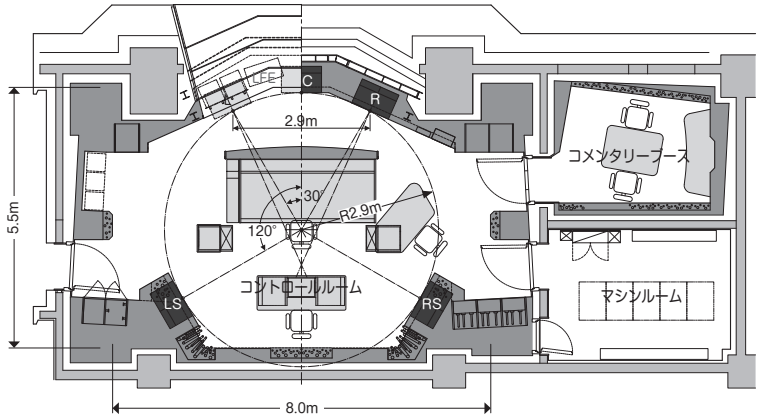


図 -1.　CR509 スタジオ平面図と概要

○床面積：39 ㎡　○室容積：98 ㎥　○天井高さ：2.7m

◯ラージモニター：NES211S（H）×5 / NES100LFE×2
◯モニター距離：ラージ :2.9m
◯スピーカ配置: ITU-R BS.775-1 準拠　開き角 30°(L/R), 120°(LS/RS), 仰角 14°(5ch)

2. 音響設計コンセプト

オーケストラなどの大編成収録でも、フロア側と円滑にコミュニケーションを図ることができる大きなガラス窓の確保と、5チャンネル同一のラージスピーカによるITU-R 準拠の優れたサラウンドモニター環境の両立をコンセプトとして、以下の音響設計を行いました。

2-1. フロントバッフル構造

レコーディングスタジオにおけるコントロールルームでは、ガラス窓の視認性とモニター音質は、常にトレードオフの関係にあります。ガラス窓を大きくとると、スピーカ台をガラス上の天井スラブから防振吊りで支持することになり、スピーカは揺れやすくなります。そのため、音像が大きくなりがちで、奥行き感が出にくいといった印象に繋がり、音質面では不利になります。

これらを解決するため、今回は、スピーカ台を重量鉄骨によるトラスフレームで構成し、床面から自立させたリジッドな構造としました。このトラスフレームは、ガラス窓を跨ぐ形で床から自立させ、コンクリートと重量ブロックでスピーカ台とスピーカ背後を構成し一体化することで、メカニカルアースの確保と、質量・剛性のある強固なフロントバッフルとしました。

ITU-R 準拠のサラウンドモニター環境では、5チャンネル同一条件のスピーカ配置が理想となるため、リアスピーカも、フロント同様の鉄骨トラスフレームによる構造を採用しています。

これらのスピーカマウントの改善を行うことにより、平面的に広い視野角のガラス窓を確保しつつ、低域のパワー感だけでなく、奥行き感などの繊細な音場表現も可能なレスポンスの良いモニター音場を目指しました。

2-2. バランスの良い室内拡散処理

横長室形状で天井が低いモニター環境では、サラウンドパンのチャンネル間の繋がりや空気感などの音場表現が難しいというデメリットがあります。

天井面が、ミキサー席に対して一番大きな一次反射面となるため、天井仕上げの影響が音質に支配的となります。天井からの反射の影響を排除しようと吸音し過ぎてしまうと、天井の低いスタジオにありがちな“音抜けの悪さ”が強調されてしまいます。

そこで、今回は、壁面だけでなく、天井面からも柱状拡散体を採用しています。径が細い柱状拡散体を壁面より密度を粗にして天井面から吊るして、高域の微細な拡散反射音を天井から返すことで、“音抜けの悪さ”を解消し、スタジオで収録される音の空気感などの再現の向上を狙っています。

また、側壁からの時間遅れが大きい反射音との間をつなぐように、天井から拡散反射を返すことで、反射音の時間・空間的なバランスを整え、フロント～リア間のパンニング時にも自然な音の繋がりとなるように工夫しました。

このように室形状に合わせてバランスの良い拡散反射面を配置することで、天井高のない横長室形状でも、音響的な悪影響を最小化してリスニングエリアを拡大し、音の自然な繋がりが得られるサラウンドモニター環境を目指しました。

Api Vision コンソールに関して　Vol. 3

ミックスウェーブ（株）
齊加 博和

今回、NHK　CR-509 スタジオに納入させて頂いたのは、api 社の Vision コンソールです。このコンソールの最大の特徴はセミカスタムオーダーコンソールということです。

NHK の Vision の場合、オンエアーに対応する設計で電源が 2 重化になっており、万が一 1 つの電源が故障しても瞬時に切り替わるようになっています。また瞬停にも対応しており、2 サイクルの瞬停に関してまでスムーズに動作するように設計されています。

コンソールの配置

ユーザーの要望により 2 つの 200 スロットにどのモジュールをインストールするかの選択が可能です。200 スロットにはマイクプリ、コンプレッサー、ゲートなどが用意されています。例えばマイクプリは必要ないとか、コンプは必要かなどを選択できます。

センターセクションにオプションバケットをインストールすれば、api の 200 シリーズのモジュールや api が提唱している VPR（500 シリーズの共通モジュール）をインストールすることも可能です。

今回 NHK の場合、Millennia、Neve、SSL などのモジュールが導入されています。もちろんすべてのモジュールの入出力はパッチベイにも立ち上がっており、どのチャンネルにもインサートすることが可能です。

コンソールフレーム数も 48ch,56ch,72ch,80ch と選択することが出来ます。

入出力関係

Vision は 2 つのシグナルパスを持っています。

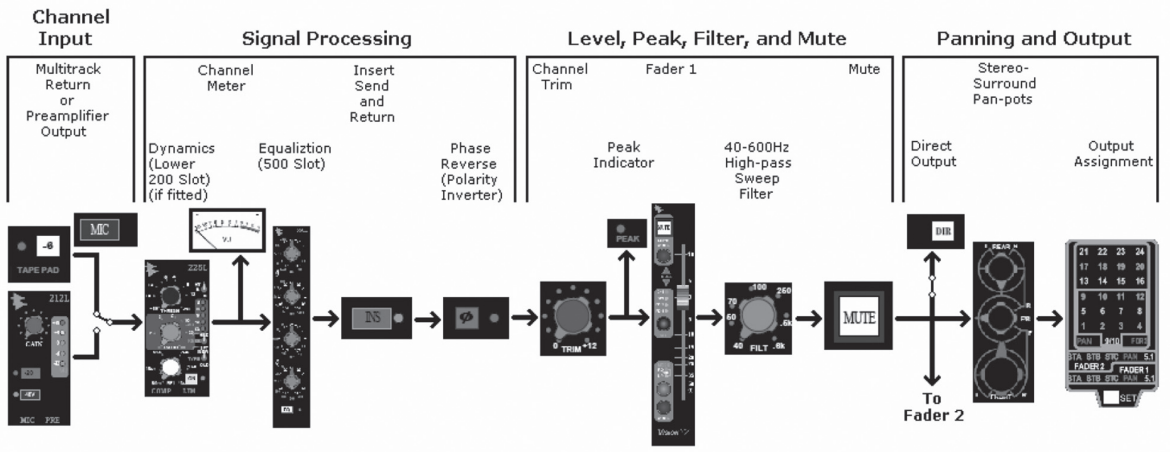
Fader1（ラージフェーダー）、Fader2（スモールフェーダー）と異なるシグナルを入力する事も同じシグナルを入力する事も可能です。また出力も別々にすることも可能です。ラージフェーダーで 5.1 ミックスを行い、スモールフェーダーで 2 チャンネルのミックスを、ラージフェーダーでプロツールスの送りを、スモールでモニターバランスを、ラージフェーダーで通常の Mix を、スモールでテレビ Mix というような事も可能です。

EQ は 1 つのため、片側のみに EQ を使用する事も可能ですし、Fader1 のシグナルを fader2 に取り込む違うバランスを作る事など可能であり、用途に分けてさまざまな使い方が出来ます。

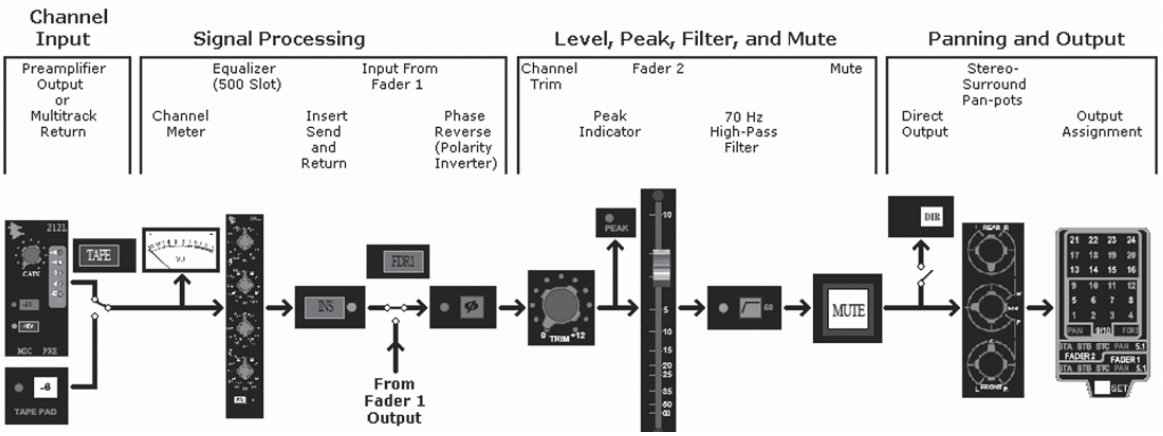
それぞれのシグナルにパンポットが装備しており、2ch、5.1ch ともパンが可能です。

また両フェーダーともムービングフェーダーオートメーションを装備しています。

Fader1



Fader2



出力のマスターですが、こちらも 2ch、5.1ch のそれぞれのマスターが用意されており、5.1ch のマスター L,C,R,LS,RS とございます。

外部コントロール

HUI コントロールと接続も可能ですので、プロツールスなどとフェーダーの動きを同期することも可能です。

アナログコンソールの最大の特徴は f 特だと思います。Vision はクラス A のフルアナログコンソールで、F 特が 50kHz までフラットに伸びております。これからのハイデンシティオーディオには欠かせない 1 つのアドバンテージだと思います。

このように通常のアナログコンソールを超える装備もあり、世界中で Vision コンソールが注目を浴びています。

会　員　動　向

1．会員数（平成 26 年 4 月 1 日現在）

正会員（法人）　25 法人　　正会員（個人）　20 人　　準会員　1 法人
賛助会員Ⅰ　41 法人　　賛助会員Ⅱ　2 法人

2．入会

①準会員

○合同会社 SIGN SOUND　　平成 26 年 2 月 1 日

3．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○住所変更

メモリーテック株式会社
（新）〒 107-0052 東京都港区赤坂 5-2-20 赤坂パークビル 10F
（TEL/FAX の変更はありません）

②賛助会員

○住所変更

ナショナル物産株式会社 ビデオ・グラフ事業部
（新）〒 106-0044 東京都港区東麻布 3-3-1 アイザック東麻布ビル
TEL:03-5570-9761 FAX:03-5570-9766（TEL/FAX の変更はありません）

4．その他

○法人代表者変更

ユニバーサル ミュージック合同会社
藤倉　尚（社長兼最高経営責任者）2014 年 1 月 1 日付

○担当者変更

経済産業省　商務情報政策局 文化情報関連産業課（メディア・コンテンツ課）
（旧）石井　清乃（特許庁 へ異動）
（新）楢橋　龍史（係長）

○新任

日本コロムビア株式会社
吉田　眞市（代表取締役副社長兼コロムビア・マーケティング（株）
代表取締役社長）

○事務所移転

株式会社太陽保険事務所　　平成 26 年 2 月 3 日付
（新）〒 101-0054 東京都千代田区神田錦町 3-15 名鉄不動産竹橋ビル
TEL : 03-3586-3511 FAX : 03-3586-6528（TEL/FAX の変更はありません）

○校名変更

（旧）学校法人滋慶コミュニケーションアート
名古屋コミュニケーションアート専門学校
（新）学校法人滋慶コミュニケーションアート
名古屋スクールオブミュージック専門学校

平成 26 年 4 月 1 日付

○新商号

（新）株式会社ソニー・ミュージックレーベルズ

（ソニー・ミュージックレコーズはエスエムイーレコーズ、ソニー・ミュージックアソシエイテッドレコーズ、エピックレコードジャパン、デフスターレコーズ、アリオラジャパン、キューンミュージック、ソニー・ミュージックジャパンインターナショナルの７社を吸収合併により統合）

（新）株式会社ソニー・ミュージックマーケティング

（旧）株式会社ソニー・ミュージックディスリビューション

○退任

株式会社ワーナーミュージック・ジャパン

石坂 敬一氏　代表取締役会長兼 CEO　退任

４月１日以降　取締役名誉会長

○スタジオ事業統合

エフ・ビー・コミュニケーションズ株式会社とヴァストミュージックエージェンシー株式会社は両社が運営するレコーディングスタジオ事業を平成 26 年４月１日より統合。（スタジオサムホエア・サウンドアトリエ、バーニッシュストーンレコーディングスタジオ）

○支部長変更

AES 日本支部

（新）支部長　　染谷 和孝（(株）東海サウンド）

副支部長　丸井 淳史（東京藝術大学）

○組織名変更

（旧）特定ラジオマイク利用者連盟

（新）一般社団法人特定ラジオマイク運用調整機構

法人正会員
代表者各位

平成 26 年 6 月 6 日
（一社）日本音楽スタジオ協会
事　務　局

平成 26 年特定サービス産業実態調査への ご協力のお願い

経済産業省では、平成 26 年 7 月 1 日現在で「平成 26 年特定サービス産業実態調査」を実施します。

この調査は、

・我が国サービス産業のうち特定のサービス産業について、その活動の実態と事業規模の現状を明らかにし、サービス産業に関する施策の基礎資料を得ること

を目的としており、調査対象事業所・企業には、6 月中旬頃から順次、経済産業省から調査関係書類を配布させて頂き、調査票の提出についてお願いする予定です。

つきましては、この調査の趣旨をご理解いただき、郵送又はインターネットにより御回答いただきますよう、お願い申し上げます。

【調査対象業種】

●ソフトウェア業　●情報処理・提供サービス業　●インターネット附随サービス業　●各種物品賃貸業　●産業用機械器具賃貸業　●事務用機械器具賃貸業　●自動車賃貸業　●スポーツ・娯楽用品賃貸業　●その他の物品賃貸業　●デザイン業　●機械設計業　●広告業　●計量証明業　●冠婚葬祭業　●映画館　●興行場、興行団　●スポーツ施設提供業　●公園、遊園地・テーマパーク　●学習塾　●教養・技能教授業　●機械修理業（電気機械器具を除く）　●電気機械器具修理業　●映像情報制作・配給業　●音声情報制作業　●新聞業　●出版業　●クレジットカード業、割賦金融業　●映像・音声・文字情報に附帯するサービス業

【連絡先】〒 100 － 8902
東京都千代田区霞が関 1 － 3 － 1
経済産業省大臣官房調査統計グループ
構造統計室サービス産業実態統計班
TEL：03 － 3501 － 0327（直通）

♪　編　集　後　記　♪

希望という名のあなたを尋ねて/遠い国へとまた汽車に乗る/・・・いつかあなたにまた逢うまでは/あたしの旅は終わりのない旅/［岸洋子　希望より］もしもあたしに明日が見えたとしても/終わりのない旅はいままた始まるだろう・・・

うさぎ

いよいよサッカーのワールドカップが近づいてきました。この会報が発行される頃には、日本代表メンバーが決定していますが、ザッケローニは、どのようなメンバーを選出するのか楽しみですね。

hair ken short

国立競技場改修工事が始まり、青年館も閉館。渋谷も再開発中。たまにはブラブラしないと変化についていけなくなってしまいます。

yakiton

日々時間に追われている気がするのは、充実しているのか、余裕がないのか。分かってはいるけれど、いつもギリギリなのは改めなくてはいけませんね。

mm

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊運　営　委　員　会＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委 員 長　広岡　淳利（音響　ハウス）
委　　員　佐藤　賢一（事務局）
〃　　山本　　薫（　〃　）
〃　　伊東　真奈美（　〃　）

＊＊

【発行人】会　長　内　沼　　映　二　【発　行】2014年（平成26年 ） 6月
【発行所】一般社団法人 日本音楽　スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　　モナーク大久保3F
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【 編 集】運　営　委　員　会　　【印刷所】株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp